

令和元年9月2日

平成31年度全国学力・学習状況調査結果の概要

熊野市教育委員会

1. 教科に関する調査結果について

小学校の調査結果については、全教科で平均正答率が全国平均を下回っている。中学校の結果については、国語と英語（聞くこと、読むこと、書くこと）の平均正答率が全国平均を上回ったが、数学は全国平均を下回っている。

【小学校の調査結果】

	国語	算数	全教科平均
熊野市	55.0%	61.0%	58.0%
三重県	64.0%	67.0%	65.5%
全国	63.8%	66.6%	65.2%
全国との差	-8.8P	-5.6P	-7.2P

【中学校の調査結果】

	国語	数学	英語	全教科平均
熊野市	73.0%	59.0%	60.0%	64.0%
三重県	72.0%	60.0%	56.0%	62.6%
全国	72.8%	59.8%	56.0%	62.8%
全国との差	+0.2P	-0.8P	+4.0P	+1.1P

2. 各教科における特徴について

(1) 小学校

① 国語

設問内容では、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」（設問番号1四（1）イ 以下同様）は71%の児童ができており、1.6%上回っている。

しかし、「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」（3三）は、全国平均を19.8%下回っている。また、「文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く」（1四（2））では、全国平均を24.1%下回っている。

学習指導要領の領域では、特に「話すこと・聞くこと」「書くこと」に課題がみられる。

② 算数

設問内容では、「 $350 - 97$ について、引く数の97を100にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く」(3 (1))では全国平均を1.0%上回っている。

しかし、「二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く」(2 (3))「減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く」(1 (3))の正答率は30%台でいずれも全国平均を13%以上下回っている。

学習指導要領の領域では「量と測定」が全国平均を13.5%下回っている。

(2) 中学校

① 国語

10問中6問が全国平均を上回っている。

設問内容では、「「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く」(1四)は、11.7%全国平均を上回っている。

しかし、「話し合いでの発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する」(2一)は、全国平均を9.1%下回っている。

学習指導要領の領域では、「話すこと・聞くこと」に課題が見られるものの「書くこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では学習内容が定着していることがうかがえる。

② 数学

16問中8問が全国平均を上回っている。

設問内容では、「ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの説明として正しいものを選ぶ」(7 (2))の正答率が88.0%で全国平均を10.8%上回っている。

しかし、「 a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ」の正答率が48.1%で全国平均を14.1%下回っている。

学習指導要領の領域では、「図形」の領域が全国平均を5.8%上回っているが、「数と式」の領域に課題がみられる。

③ 英語

13問中9問が全国平均を上回っている。

設問内容では、「教室英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する」(1 (2))の正答率98.1%で全国平均を9.5%上回っている。また、「ある場所を説明する英文を読んで、空所に入る語句として最も適切なものを選択する」(5 (1))の正答率は88%で全国平均を8.6%上回っている。

しかし、「ある状況を描写する英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を選択する」(5 (2))は、全国平均を6.8%下回っている。

学習指導要領四領域のうち三領域(聞くこと・読むこと・書くこと)で、全国平均を上回っている。

※「話すこと」の領域に関する問題の結果については、都道府県別・指定都市別の公表は行われていません。

3. 児童・生徒質問紙調査結果について

小学校では、「授業の内容はよくわかる」（質問番号39 以下同様）（48）の質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童の割合は、国語で8.7%、算数で7.9%全国平均を上回っている。

しかし、「調査問題の解答時間は十分でしたか」（57）（58）の質問に対して「時間があまった」「ちょうどよかった」と答えた児童の割合が全国平均より国語で7.5%、算数で7.7%下回った。中学校でも小学校と同様の傾向がみられた。

これらの調査結果から、子ども達は、一時間の授業の中では、「学習内容がわかった」と感じている児童・生徒が多いものの、教科に関する調査においてそのことが結果として表れておらず、学習内容が定着しているとは言えない。

「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」（17）の質問に対して小学校・中学校共に肯定的な回答が全国平均を上回っている。家庭学習の充実については、各学校が取り組んでいるところであるが、今後、子ども達が主体的に取り組むことができるような課題の設定について検討していく必要がある。

【児童質問紙（小学校）】

回答の割合が全国平均を上回っている項目

※「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合（以下同様）

- | | |
|---|--------------------|
| ○先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う（7） | 熊野市：93.5% 全国：91.7% |
| ○将来の夢や目標を持っている（8） | 熊野市：89.2% 全国：83.8% |
| ○家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（17） | 熊野市：80.6% 全国：71.5% |
| ○外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う（25） | 熊野市：77.4% 全国：68.6% |
| ○日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う（26） | 熊野市：88.2% 全国：76.1% |
| ○国語の授業の内容はよくわかる（39） | 熊野市：93.6% 全国：84.9% |
| ○算数の授業の内容はよくわかる（48） | 熊野市：91.4% 全国：83.5% |

回答の割合が全国平均を下回っている項目

- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）どれくらい勉強していますか（18）
※1日当たり1時間以上勉強している割合（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）
熊野市：62.4% 全国：66.1%
- 読書は好きですか（21）
熊野市：73.1% 全国：75.0%
- あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う（32）
熊野市：65.6% 全国：74.0%
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う（34）
熊野市：69.9% 全国：80.9%
- 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う（35）
熊野市：72.1% 全国：77.7%
- 解答時間は十分でしたか(国語)（57）
熊野市：66.7% 全国：74.2%
- 解答時間は十分でしたか(算数)（58）
熊野市：76.3% 全国：84.0%

【生徒質問紙（中学校）】

回答の割合が全国平均を上回っている項目

- 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか（7）
熊野市：91.7% 全国：84.6%
- 将来の夢や目標を持っていますか（8）
熊野市：79.6% 全国：70.5%
- 学級みんなで話し合っただけ決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか（11）
熊野市：93.5% 全国：82.8%
- 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（17）
熊野市：69.4% 全国：50.4%
- 読書は好きですか（21）
熊野市：72.2% 全国：68.0%
- 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか（26）
熊野市：74.0% 全国：59.3%
- 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか（32）
熊野市：86.1% 全国：72.8%

○国語の授業はよく分かりますか(42)	熊野市:87.1% 全国:77.6%
○数学の授業はよく分かりますか(51)	熊野市:83.3% 全国:73.9%
○英語の授業はよく分かりますか(56)	熊野市:82.4% 全国:66.0%

回答の割合が全国平均を下回っている項目

○学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)どれくらい勉強していますか(18)	
※1日当たり2時間以上勉強している割合(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)	熊野市:19.5% 全国:35.5%
○解答時間は十分でしたか(国語)(67)	熊野市:88.0% 全国:90.3%
○解答時間は十分でしたか(数学)(68)	熊野市:77.8% 全国:84.7%
○解答時間は十分でしたか(英語)(69)	熊野市:54.6% 全国:63.0%

4. 学校質問紙調査結果について

本市の学力向上に向けての重点目標のひとつである「家庭学習の充実」については、前項で述べた通り、児童・生徒質問紙からは「家で自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童・生徒が多いが、学校質問紙においては「家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った」(59)の質問に対して肯定的な回答をした割合が小学校・中学校共に全国平均を下回っている。子どもたちの意欲を引き出し、主体的・自律的に取り組むことができる手立て・課題の設定等について学校全体で検討し、取り組んでいく必要がここからもうかがえる。

同じく市の重点目標のひとつである「言語活動を中心とした「主体的・対話的な深い学び」の推進」に関わっては、「言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる」(19)の質問において、肯定的な回答をした割合が小学校・中学校共に100%であった。

中学校においては、「英語担当教師とALTとの間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業を行うことができている」(62)の質問に、肯定的な回答をした割合が100%だった。

5. 今後の取組について

熊野市では、学力向上推進研修会を年3回開催しています。8月開催の第2回研修会は、本年度の全国学力・学習状況調査における本市の課題を明らかにし、それを全職員で共有することで、今後の授業改善につなげていくことを目的に全員参加の悉皆研修会として開催しました。本研修会では、S-P表(学校/学級別解答状況整理表)を元に分析を行い、各校の学級全体の傾向や、児童生徒一人ひとりの学習の様子について理解を深めると共に、2学期からの授業改善に向けて具体的な取

組内容について共通理解を図りました。

また、市の研究指定により、外部講師の指導を受けながら授業改善に努めている学校や、県教育委員会の学力向上事業の指定を受け、算数・数学と理科における効果的な少人数指導について実践研究を進めている学校もあります。今後、それらの学校の実践で得た成果と課題を他の学校にも還元し、県教育委員会が作成しているワークシート等も活用しながら、更なる授業改善と課題の克服に努めてまいります。

さらに、学力向上アドバイザーや紀州教育支援事務所指導主事、熊野市教育委員会指導主事が学校訪問を行い、授業研究を通して学校での研修体制の充実を図り、児童・生徒の学力の向上に努めてまいります。